

4 通貨スワップ・オプションの活用

ガイダンス

前項では、金利スワップ・オプションの活用についてみてきましたが、本項では通貨スワップ・オプションの活用についてみていくこととします。

ただ、基本的な事項や考え方は、金利スワップ・オプションと大きく変わることはありません。ここではもう少し具体的に話を進めていくこととします。

1. 財務上の個別ニーズに応じた活用

▷ 為替ヘッジとデリバティブ

為替ヘッジに役立つデリバティブ商品には以下のものがあります。

為替予約

通貨オプション

通貨スワップ（クーポンスワップ）

第1分冊でも述べましたが、東京マーケットでは店頭（OTC）取引が主流です。

これらのうち、短期的なもので1回限りのもの（1回1回個別のもの）に利用されるのは、通貨オプションと為替予約です。

長期的なもので複数回払いのあるものに利用されるのは、中長期先物為替予約と通貨スワップ（クーポンスワップ）です。通貨スワップとクーポンスワップの違いは、元本交換がある場合が通貨スワップで、元本交換がない場合がクーポンスワップとなります。

▷ 実需に基づいた活用が基本

企業にとっては、輸出入の代金決済需要など実需に基づく為替変動リスクに対して、上記商品あるいはこれらを組み合わせたものを活用することが基本となりますが、実需を伴わずに為替相場や内外金利差に着目した取引（スベキュレーション）も一部あります。

▷ 財務上の個別ニーズに応じた活用

為替関連に対するデリバティブの活用方法にはいくつもの組合せが考えられ、全体像は(図表1-14)のとおりです。以下では個別ニーズを3つのパターンに分け、デリバティブの活用方法についてそれぞれ比較することにしましょう。

輸出入の代金決済需要など実需に基づく為替リスクの回避

外債発行などのファイナンス・海外投資に基づく為替リスクの回避

コストの軽減・利回りアップ

〔図表1-14〕 顧客ニーズとデリバティブ(為替関連)

